



CSW65

サイド・パラレルイベントに参加して
サポーターからの報告

戸室 磨里乃

「女性のいる会議は時間がかかる」と言われて、私は。

戸室磨里乃（とむろ まりな）

会社員 教育学研究科比較教育社会学コース修了

LGBT稲門会(早稲田大学)・Tottoko Gender Movement(東京大学)

アジア女性資料センターCOVID-19キャンペーン翻訳参加



Q1：日本社会で最も脆弱な立場に立たざるを得ない人たちの声をどうやって意思決定の場へ届けることができるのか？

Q2：日本の政治を変えるために、私ができることはなにか？

CSW65 サイドイベント・パラレルイベント 何百もの国からの参加者たち

「Gendered effects of the COVID-19 pandemic」

By 世界銀行

- ・ 新型コロナウイルスによる社会への影響について、ジェンダーの視点から議論するイベント。
- ・ 各国の統計的なデータ・分析を取り上げながら、いかに新型コロナウイルスの影響(失業・DV・アンペイドワークの負担・貧困など)を男性よりも女性の方がより深刻に受けているかを議論した。

「Reclaiming Gender Justice: Counting National, Regional and Global Backlashes」

By ACT Alliance, ACT Church of Sweden, Faith Movement for Gender Justice

- ・ ジェンダー平等を推進する上で直面したバックラッシュやその問題について対談していくイベント。
- ・ キリスト教やイスラーム教といった宗教的文脈を理解することがその共同体でのジェンダー平等を推進する上で重要であることが強調された。

「Ensuring Public participation, amplified Voice and safe spaces for Sex workers' rights advocacy」

By NLD, NZ, Count Me In!, NSWP

- ・ セックスワーカーのスティグマやそれに関わる社会保障、法律の問題について、当事者であり活動家でもあるゲストが対談していくイベント。
- ・ ゲストは、ロシア、ミャンマー、セネガルと幅広く、自らの経験を交えながらセックスワーカーの抱える問題を議論した。

CSW65に参加して気づいたこと

- ・ 国は違えど、抱える問題の共通性
 - 貧困の女性化/シングルマザーの貧困
 - セックスワーカーへのスティグマ
 - DVの増加/オンライン上の暴力
 - 家父長的な法律(中絶の禁止など)...など
- ・ 国ごとに異なる問題へのアプローチ
 - 宗教の重要性

私の問いかけに対する答え CSW65参加を通じて

Q1：日本社会で最も脆弱な立場に立たざるを得ない人たちの声をどうやって意思決定の場へ届けることができるのか？

- ・当事者の人たちが直接声を上げることができる環境を作っていく必要性

「私たちがどのような決断を下すのかは、誰と話し合うかによって決まります」

—Golriz Ghahraman

Q2：日本の政治を変えるために、私ができることはなにか？

- ・声を上げること、連帯すること (Solidarity/Sisterhood)、行動をすること

「Speak up! Amplified Our Voices!」 —Pascalle Grotenhuis